

労災遺族ら懇談会

再発防止へ思い語り合う

労働災害で亡くなった人を弔う高尾みこころも霊堂（東京都八王子市）で13日、春の慰霊祭が行われ、遺族ら約70人が参列した。東日本大震災の津波で、七十七銀行女川支店の行員だった長男の田村健太さん（当時25）を失った父の孝行さん（62）は慰霊祭に初めて参加。健太さんの遺品の名刺やハンコなどを霊堂に納めた。

高尾みこころも霊堂では、毎年春に慰霊祭を開き、秋に「産業殉職者合祀慰霊式」を執り行っている。労働災害の遺族同士で話し合



労働災害で家族を亡くした遺族らと語り合う田村孝行さん（中央）
13日午後、東京都八王子市の高尾みこころも霊堂（大渡美咲撮影）

いたいという要望を受け今回、慰霊祭に合わせ初めて懇談会を開催した。仕事中に交通事故や災害、事件に巻き込まれるなどして子供を亡くした7家族9人が参加。大切な人を亡くした悲しみや二度と同じ悲劇を繰り返してほしくないという切実な思いを語り合った。

懇談会で田村孝行さんは企業管理下で亡くなった場合に原因究明をしたり相談したりする機関が必要としたのが知りたい。次の事故を起こさないために遺族の話し合う場をスタートにしていきたい」と話した。

長時間労働やパワハラに苦しみ自殺した広告大手「電通」の新社員、高橋まつりさん（当時24）の母、幸美さん（60）は「みこころも霊堂を多くの人に知ってもらい、労働を通じて過労死をなくす啓発をしてほしい」と訴えた。仕事中の交通事故で当時26歳の息子を亡くした田中由嘉さんは「つらい思いを乗り越えられていないのは自分だけではないと同じ思いを持つ方々と話をする事ができてよかった」と話した。